

令和5年 第8回 根室市教育委員会 会議録

1. 非公開案件の審議（会議録省略）

- | | |
|------------|--|
| (1) 議案第28号 | 令和5年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について |
| 結 論 | 原案どおり決定 |
| (2) 議案第29号 | 根室市教育支援委員会委員の任命について |
| 結 論 | 原案どおり決定 |
| (3) 議案第30号 | 教育上特別な支援を必要とする児童の教育措置に係る諮問について |
| 結 論 | 原案どおり決定 |

<教育長>

特にご発言もなければ、以上をもちまして、本日の委員会に付議されました議件の審議は全て終了いたしました。これをもちまして、令和5年第8回根室市教育委員会の会議第1部を閉会いたします。

午前10時30分 第1部 閉会

その他

1. 高校生との意見交換について

<教育長>

ここからは、高校生にも参加していただきます。

まず初めに、一冊の本の一部朗読を行い、公民館事業、ねむろこども観光大使事業についての報告を行った後、意見交換を行います。

委員の皆様にも多くのご意見をいただければと思います。

話し合いの前に自己紹介をしてもらいます。自分の好きな事、趣味でも食べ物でも、スポーツでも何でもいいですので付け加えてください。

～教育委員2名、高校生6名、教育委員会職員3名 自己紹介～

<教育長>

ありがとうございます。

それではこれから令和5年第8回根室市教育委員会の会議第2部を始めます。

先ほど担当から趣旨の説明等受けたと思いますが、今回のテーマは「根室市の教育に必要なこと。」です。

私は根室市に来て今年目になります。元々旭川出身で全道各地で仕事をしてきました。

根室市に初めて来て、一番感動したものは、自然の素晴らしさもありますが、人の情が熱いところに

感動しました。しかし、最初に仕事で根室市民のアンケートを読みました。すると、「根室市は本当に素晴らしい街だ!」「こんな素敵な街はない!」と褒めたたえる意見もある一方、「何にもない街だ。」「何の住み心地も良くない。」などの反対意見もありました。

多くのアンケートは、中間の回答が一番多い傾向にありますが、根室市民の意見の割れ方にびっくりしました。それと同時に、最初に感じた自然の豊かさ、こんな豊かなところに住んでいるのに、わがままな人が多いんだろうっていうのも感じました。

豊かな自然環境や、豊かな市民がお互い思いやりを持って、もっと素晴らしい街作りをできるのではないかなと思いました。

その考えを踏まえ、全ての教育委員の方々と話をしてきましたが、今回は、若い人の感性で、もっと幅広くディスカッションしたらどうか。ということで、今回このような形式になりました。

皆さんの発言や考え、思いついたことを来年以降の根室市の教育に少しでも取り入れていきたいと考えています。

でも、緊張はしないでください。そのようなアイデアは、かしこまったところからは生まれません。思い付きでもいいので、自由に積極的に発言してください。

その中で、素敵なアイデアだなとか、その内容でもう少し練り上げてみようかといった内容が生まれるかもしれません。

だから、感じたこと思ったことを遠慮せずに積極的に発表してください。よろしいでしょうか?

はじめに、「豊かな自然環境をどうしていくか」というヒントになればということで、お手元に配布しております「センス・オブ・ワンダー」の内容について図書館担当職員に朗読してもらおうと思います。よろしくお願いします。

<図書館奉仕主査>

～「センス・オブ・ワンダー」(レイチェル・カーソン著)の一部内容について朗読～

<教育長>

次に、8月15日の日に根室市観光協会主催の根室観光大使の事業に、教育総務課の職員が参加しました。この授業は小学生が、「市長への手紙」として、市長に手紙を出して、「根室の観光大使になりたい」ということを市長へお願いしました。そこで実現した事業で、市内4人の子どもたちが「根室を紹介する観光大使になりたい。」「根室のこといっぱい知りたい」という内容で根室市内をバスで回ってきました。その様子を紹介してもらいます。

<教育総務課担当>

～ねむろ子ども観光大使事業の内容について説明～

<教育長>

何か質問ありますか。

それでは、もう一つ話題を用意しています。これは、公民館の事業で「教育長と一緒に根室を学ぼうなるほどThe ネ〜ムロ」という事業になります。説明をお願いします。

<公民館事業担当>

～事業内容について報告～

本事業の中で印象的なエピソードがあります。

ある食べ物のお話を1人の子がしたら、誰も知らなくて、スマホがあればすぐ終わる会話でしたが、2日間絵を描いて伝えようと努力したり、その食べ物のお話について考えたという出来事です。

その子も「スマホがあったら伝えられるのに」と言ったけど、スマホは手元にないため工夫しながら一生懸命伝えていました。これは今スマホの普及で少なくなったコミュニケーションだなというのを感じました。

本事業を通して、自分で決めて行動すること、他者に影響を及ぼす場合はちゃんと対話して折り合いをつけること。何よりも誰かが別の行動したときにそれを異質だと捉え、非難することなく尊重する。そのような行動を自然に行っている子どもたちの姿に感動しました。

以上です。

<教育長>

「センス・オブ・ワンダー」「ねむろこども観光大使」「なるほどTHE ネ〜ムロ」について、今お話を聞いていただきました。

感じたことや、質問とか自由に発言していただいてかまいません。

<委員>

私自身も数年前に教育委員というのになりました。

教育委員、教育委員会というのはどこの市町村にもありますが、高校生の皆さんに教育委員はどう思われているのかなとすごく疑問に思っていました。

私は正直、教育委員や教育委員会に入る前って、教育委員会の印象ってそんなに良くなかったです。ものすごいお堅いイメージで、学校でいじめがあったら出てきて謝るという係の人たちなのかなと思っていました。委員になってからは実は様々な事業をやっているということに気づきました。高校生の皆さんはどんな印象を持ちましたか

<高校生>

楽しそうな企画を考えてくれる人たちっていう印象に変わりました。

<教育長>

今までの印象はあまり良くなかったのかな

<高校生>

偉い人みたいな、ちょっと怖い印象っていう。「先生が嫌がる。」印象がありました。

<教育長>

今回の会議の参加依頼のとき、参加してみようかなと思った理由を教えてください。

<高校生>

ここに来た理由は、自分は、友達が行くって言ったので行ってみようかなと思って来ました。

<高校生>

先生に提案されたのがきっかけです。みんな行くなら、自分も行こうかなという感じです。

<教育長>

生徒会で声かけられて、仕方なく来ましたか。

<高校生>

参加は自由だったので、自分たちが行きたいなと思って全員来ました。

<教育長>

その他どうでしょうか。三つの事業についてご自由に発言していただければと思います。

<高校生>

この観光大使事業の資料は小・中学生に配られていますか。

<教育総務課担当>

観光大使事業の方は教育委員会でも周知をしています。観光協会でも周知をしています。

<高校生>

参加するために情報を探しだすのが難しいと思います。

<教育長>

この事業は今年から始めたから、君たちが小中学校時代はない事業ですね。

事業の内容として、何をしているのかというのが、市民の皆さんや小学生中学生に届いていない。

<高校生>

小・中学生が行っているのも知らなかったです。小さい子たちでも携帯とかを使ってインターネットは使っていると思います。

市のホームページとかを見る機会は少ないです。最近LINEを登録して、クマ目撃情報とかで見るようになった程度です。参加したくても、すでに事業が終わっていて、後日友達から聞いてそんなのあったんだという感じが多いです。もうすこし大々的な情報発信をしてほしいです。

<教育長>

「なるほどTHEねーむろ」のような事業があったら参加したいと思いますか。

<高校生>

行きたいです。絶対楽しいと思います。

<委員>

私は娘を参加させたいです。今年参加をさせたいと思っていましたが、家の用事で行けませんでした。今日お話を聞いて、なおさら行かせたかったなと思いました。対象が小学生のため、来年中学生になり参加できず残念に思っています。

<教育長>

秋にもう一回やるのはどうでしょうか

<公民館担当>

検討します。

来年中学生になる子に、「中学生になったら参加できませんか。」と質問もありました。

高校生版があれば参加したいと思いますか。

<高校生>

はい。楽しそうだなと思います。

<委員>

回数を増やしていただけると良いと思います。

年に1回というのはその日程で都合が合わないと、その年は参加できなくなってしまうからです。

<公民館事業担当>

スマホとか使えないけど大丈夫ですか。

<高校生>

大丈夫です。

<教育長>

このような事業を高校生で企画してみたらどうでしょうか。

<公民館事業担当>

生徒会主催で行うとなれば、共催もしくはサポーターで公民館の職員も入ります。

<教育長>

検討してみてください。

今、生徒会で、自分たちのやりたいことは行えていますか。

<高校生>

あまり行えていません。どちらかと言えば先生たちが決めたことに対して、首を縦に振るしかない。

<教育長>

もっと自分たちでやりたいこととかはありますか。

<高校生>

校則とか、変えたい部分はあります。校則は制限が多いように感じています。

靴下の色については、教育に何の関係あるのかなという感じなので、髪の色染めたって勉強はできていると思います。ピアス開けていても勉強はできるし、その理由は疑問に思います。

<教育長>

自分たちのやりたいことをやれない生徒会って、自分たちでどう感じていますか。

<高校生>

嫌です。先日も、体育大会の話で、いつもと違う競技の体育大会になってしまいました。生徒会が運営側行っているの、不満が先生側ではなく生徒会に集まる結果になりました。

自分たちは生徒の意見を聞くために、アンケートを取りたいと考えていて、PCを活用してみんな答えることができるようにと考えましたが、アンケート自体はできるのに、先生からの許可は下りていません。「生徒会で全部作るんでやらせてください」と伝えてもやらせてもらえないことが多いです。

<教育長>

できることを少しでもやれるようにするために、何かできることはないだろうか。

<高校生>

最終決定は、職員会議で決まっています。そこに、自分たちの思いを伝える機会があれば、先生たちにも伝わるのかなと考えています。

<教育長>

職員会議に参加することはできるだろうか。

<高校生>

許可がないと難しいと思います。

できたら参加したいです。職員会議といっても何をやっているのかよくわかってないんです。

<教育長>

この教育委員の会議と同じように、職員会議自体が何をやっているかわかっていないということですね。

<高校生>

職員会議があるから、今日は6時間授業でラッキーだなと感じる程度です。

<委員>

文章にするというのはすごく大切なことだなと思う。もちろん記録として残るし、何を伝えたいかっていうのがすごく明確になる。何かを口頭で伝えても「やっぱり無理」と言ってしまうけど、文章だと残るので、その意見を校長先生への手紙として出しちゃうというのも一意見としてはあると思います。

校則の話がありましたが、私が出た高校は、校則と言われるような校則はほとんどなくて、髪の色も自由で、服装も自由で、制服はあるけど、着なくていいという学校でした。髪の毛レインボーの人とかもいましたが、そういう子も勉強はできていました。「恰好によって勉強ができるかできないか。というのは関係ない。」というのは、まさしくその通りだと思っていて、自分の好きなことに打ち込むために勉強も一生懸命することもあると思うし、着飾るから勉強に集中できないということはないけれども、なぜ今、自分たちの高校にそのような校則が存在しているのか、先生はなぜそれを守りなさいと言うのか。なんでそうやって言ってくるんだろうということを考えて生徒からの意見をまとめるというのは大事なことだと思う。

<教育長>

高校生の皆は、他の生徒のためになろうと思って活動していると思う。生徒会として活動してやりたいことがいっぱいあるけれど、最後は先生の都合でとか、大人の都合ですって諦めることが多いと思う。困った状況を自分で克服してないから、大人になってから、誰かやってくれ、市役所、教育委員会に言って何とかしてくれといった、自分でその状況を打開する力がついてきていないと思う。

今、本当はこのようにやりたいけど、それをやれる力をつけるために、自分たちが何か一歩踏み出すことはできないだろうか。本当は校則直したいとか。

<高校生>

自分は生徒なので、先生から見ると、立場は下の方になると思います。

本当は平等であってほしいです。

ただ、やっぱり生徒からだけの意見じゃ意見ってなかなか通らないと思います。

自分たちの意見を生徒会顧問の先生が職員会議で意見として出しているのかなとは思っています。

生徒会のあるべき姿は生徒の意見を先生にぶつける代表だと思います。でも今の姿は先生からの意見を生徒に言うだけで、ただ他の生徒より上の立場にいるだけのように感じています。生徒代表、会議とかの場では生徒代表として来ていますが、学校内では「そもそも生徒会なの君」みたいに言われてしまうぐらいなので、生徒からの意見を取り入れることができてない。

自分たちの意見ですら通らないのに、生徒の意見を聞いても通すことができない。

<教育長>

僕たちは可能性を持っていて、先生方に否定されたくないということですね。

教育委員会としてもう一度あなた方に案内を出して、顧問の先生にも来てくださってというのはすごく簡単なことだと思います。

それを私達がお願いした方がいいのか、生徒会がここで話してきたんだから、今度先生も一緒に入って話す場を、僕たち企画しますから、どうですかって君達が問いかけた方がいいのか。

<高校生>

自分たちで企画していった方が影響力っていうのもいいと思います。生徒が企画したものに来てくれる。教育委員会も応援してくれていますと伝えるのもいいと思います。

<教育長>

他のメンバーはどうだろう。生徒会として意見を合わせるのは大事な作業だと思う。それぞれの意見もあるだろうし。

<高校生>

相談した方がもちろんいいと思います。まず3年生に言わないといけないし。

<教育長>

先輩にも筋を立てないといけない。

自分たちの可能性をなくさずに企画等を行えるよう、この後も一緒に考えていきましょう。

市教委も考えますが、まずは皆さんが生徒会の中で考えてみてほしい。自分たちの声を届ける場って
いうのは設定できたらいいと思います。

先ほど言っていた、市教委の行っていること事業や取組が、小中学生や高校生に届いてないということ
について何かアイデアはないですか。

<高校生>

小中学校ならやっぱりお便りだと思います。そこで初めて情報として知るところなので。

<委員>

なんかSNSとか言ってくれるのかなと思ったら以外と文書派の意見ですね。

<高校生>

高校生は多分SNSの方がいいと思います。小中学生は、プリントでもらって、親に渡せることができ
るのがいいのかなと思います。

でも、夏休み前や長期休業前は、枚数が多すぎて、無くしてしまう人もいるかもしれない。

お便りと併せて保護者メールはどうでしょうか。見る頻度は高いと思います。

<委員>

メールの内容が長いとちょっと読みづらいので、お便りとメールの両方で送るのがいいかもしれない
ですね。「お頼り渡してあるので見てください。」という短文のメールが届くってというのが一番いいで
す。今回の教育長と学ぶ事業は、先着順でしたね。

次の開催の際は人数は増えたりしますか。

<公民館事業担当>

人数が多いと危険になってしまう可能性も高くなると思います。参加者を増やす場合は少しスタッフ
を増員するか、2回にわけて実施するなどの対応が必要になってくると思います。

高校生の皆さんが本事業に参加したいと言ったのは、どういう理由で参加したいって言ってくれたの
かなと気になりました。

<教育長>

何にも決まってないプログラムってどう思いますか。

<高校生>

すごくいいと思います。

自分の行動で決められるのはすごくいいです。

遠足とかは、何時に昼食、何時にこのイベントとか、そのような時間の制限がないというのは、新鮮
でいいなと思います。

<教育長>

自分たちでもっと判断して、仲間たちと一緒に協力してというのは良いという意見がありました。

学校など、制限されてることとかは多いですか。

<高校生>

学校生活では集団でいるので多いと思います。

<高校生>

教育長と学ぶ事業のスタッフはどのようなことをしますか

<公民館事業担当>

スタッフはとにかく見守ることです。

今回は熊が出没する地域のため、ピストルと笛を持って、クマ鈴も携帯しました。

具合が悪い子がいないかも気にかけていました。「具合わるくない？」とか「トイレ行きたくない？」とか、体調を見ているスタッフが1人。もし参加人数を増やすのであれば、そのスタッフを増員するのがいいですね。

<高校生>

根室高校は、ボランティア局というのがあります。見守るとかなら高校生でもできるのかなと。

<教育長>

なるほど。参加者じゃなくてスタッフにすることですね。

<公民館事業担当>

スタッフの方で参加したいですか。それとも参加者として参加したいですか。

<高校生>

スタッフやりたい。どちらも興味はあります。

参加人数が増えたりしてスタッフが大変なら、スタッフとして行かせるのもいいのかなと思います。

<委員>

子どもも大人には言いたくないけど、お兄さんお姉さんなら喋りたいみたいなこともあるかもしれないですね。

<教育長>

大人からすると、君たちを見守るといふ、行動一つをとっても心配なことが多いと思う。

校則があるのも、君たちが非行の道に入らないように考えられているのかもしれない。

<高校生>

ほどほどの制限がいいですね。窮屈過ぎたらちょっと嫌だなと思っちゃう。

<委員>

そのさじ加減が難しいですね。

<公民館事業担当>

今回は制限するときに、ただ単に「駄目」と言うのではなく、理由を必ず説明していました。

<高校生>

理由はあったほうがいいと思いますし、納得できた方が守ろうと思います。

靴下の色は校則だと黒かグレーですが、他の色を禁止している理由は正しく説明されていません。

明日は、色と長さの項目で頭髪検査があります。長さが結構厳しくて、目に髪がかかっていたら引っかかってしまいます。爪の長さも厳しめだと思います。爪の白いところがあったら、引っ掛かると思います。

<委員>

それだと深爪になりますね。

<公民館事業担当>

女子はスカートの長さですか。

<高校生>

スカートの長さとメイクです。

<公民館事業担当>

メイクする時もありますよね。

<委員>

今小学生でもしていると思いますね。

<委員>

学校というのは社会の縮図ってところがあって、私も一応仕事をしていて、営業で来た人がスーツ着て靴下がピンクだったら、「この人を信用しても大丈夫かな。」と外見で判断してしまう。

もしかしたら、その人はすごい人かもしれないけど、結構外見で判断されることも多いと思います。そういうことを多分伝えたいのかなと思っています。

理由を全部伝えるっていうのは大変なことだけど、少し先生の気持ちもわかります。

<公民館事業担当>

自分たちは何色の靴下が履きたいとかありますか

<高校生>

意見として、白が出ました。

中学校は白なので不思議に思います。白は普通だと思います。

<教育長>

校則で決まっているのと、普段から外見で見られてしまうこともあるという事を、自分で考えて判断するのと、どっちがいいのだろうか。

<高校生>

校則より自分たちで気づいて、これはしたら駄目だと気付けた方が、守っていくと思います。

気づくということが大切だと思います。

<教育長>

私としては、何か言われたら、はいつて何か黙って従って、本当は面白くない気持ちを抱えながら、どこかでそれを爆発させるような人にはなって欲しくない。自分たちの生活だとか環境とかをこうした

いという思いがあれば、自分と仲間の力を合わせて、一つでも二つでも何か変えられるような、そんな大人になってほしい。

最後に、今回初めての試みで会議に参加してもらいました。

ここに参加した感想と、なんか気づいたこととか考えたことがあったら、話してほしいです

<高校生>

今回このような会議を聞いてみて、意外に根室って、自然に触れ合う企画をしてて、それを自分たちは知らなくて、自分も教育長さんには悪いなどは思いますが、もともと根室好きじゃなくて、でも取り組みを見ていると、すごいいい街なのかなと思って、いい意見交流の場だなと思いました。

ありがとうございます。

<教育長>

そうだね。素敵な感想を言ってくれました。話の中で出ていたけど、もし自分たちが企画して、良い企画があれば提案してみてください。

<高校生>

今回この話し合いで、今まで教育委員会がどういう仕事をしているのかは考えたこともなくて、話を聞くうちに、子どもたちも小さいながらも自然に触れ合っているいろいろな感じて知ることができるし、朗読してもらった本にもあったように、知ることより感じることで、自分がいろいろ気づいて知ったところが自分の知識にも繋がるとあって、こういう機会も自分たちが小さい頃はあんまりなかったので、今からでも何かあれば、参加したいと思う。

なんかこれからでもまだできることがあるとこの機会に思ったので、色々また気付いて、自分で取り組むみたいなのを続けていけたらなと思います。ありがとうございました。

<教育長>

知ることや与えられることで、自分で何か感じることを大事にしてほしいですね。

先ほども言いましたが、そういう場を自分たちで作っていくために、一緒に考えましょう。

他いかがでしょうか？

<高校生>

今回の話し合いで、様々なプロジェクトをやっているのを知って、私達にもできることだったらぜひこれから参加していきたいし、こういう子供たちが自然に学ぶ、自然を感じるとか、見て、触ってといった体験はすごく素敵なことだなと思いました。ありがとうございました。

<教育長>

自分も参加していきたいということですね。

そういう意気込みを語ってくれるのはすごく嬉しいです。

<高校生>

この話し合いに参加して、元々は教育委員会って何をやっているのかよくわからなくて、ちょっと怖い人たちのかなって思っていたんですが、すごく話しやすく、今の子供たちに向けて色々なことを考

えていると思いました。僕もそういうのに参加していきたいなと思いました。ありがとうございました。

<教育長>

もっと明るい印象を持ってもらえるように頑張りますね。

<高校生>

教育委員会と聞くと堅いイメージがありましたが、今回のお話で皆さん結構話しやすいとわかって意見も通しやすいなと思いましたし、自然とかの企画とかをたくさんしていただけているので、自分たちもこういう企画を考えて、教育委員会の方に話をできたらなと思いました。ありがとうございました。

<教育長>

良い印象に変えていただき、ありがとうございます。

<高校生>

私は教育委員会という名前しか聞いたことがなかったし、何をしている方ともわかりませんでした。今日この場をいただいて話を聞いて、根室の子供たちを楽しませるような企画をたくさんしていて、自分も参加してみたいなと思いました。

元々自分の意見とかも、あんまり言えなくて、否定されるだろうなとか、思っていましたが、みんな明るく話しかけてもらったのが、嬉しかったし、もっと積極的に、何かあれば自分の意見を発言していきたいなと思いました。ありがとうございました。

<教育長>

ぜひそうやって自分の声とか思いを伝えるっていうのを大事にしてくださいね。

次は教育委員会の職員に聞いていきます。

<教育総務課担当>

高校生の子たちと交流する機会っていうのがなかなかないので、教育委員会が小・中学生との関わりが多い分、少し上の年代になると意見も大人と同じぐらい対等にお話できるというのが分かって、さっきも言ったボランティアとかで活動をしていただけたら、私達も助かるだろうし、結構いろいろと何か幅が広がるのではないかなと思うので、これからも長いお付き合いをしていきたいと思います。

ありがとうございました。

<図書館奉仕主査>

お互いがちょっと遠い存在だったなというのを改めて感じました。

何となく行事をやっているなとか、教育委員会があるなっていう程度にしかなくて、お互いよく話してみると、自分も高校生のときがあったから、すごく気持ちがわかるのもあったし、思い出させてくれたというところもあったので、やっぱこういう話をする事でちょっと距離が縮まったなっていうのがあって、あの子供たちがすごい感性を磨いていろいろ考え、お互い話していくことで、ちょっと考えがお互いまとまって、お互いの学びがあったなと思いました。

<公民館事業担当>

ぜひ来てください、文化会館。私だけじゃなくて、今文化会館、公民館の職員は、一人ひとりの声をすごく大事にしています。あれやりたいとかって言われたものは、本当に全く誰1人ないがしろにしながら、結構事業化できなくても事業化させたいっていう思いで結構動いているので、なので本当にあの集団で来ていただいてもいいですし、1人で来て、何かいろいろ相談してもらえたら嬉しいなと思います。ぜひ来てください。お待ちしております。

<教育長>

委員の皆さんもお願いします。

<委員>

私は今、小学生と幼児の子どもがいるので、高校生の皆さんは少し遠い存在というか、大人同士で話す機会もあるし、小さい子と話す機会もありますが、最初の自己紹介のときにお話した通り、ピアノ教室に通っている高校生の生徒さんもいるので、接する機会はあるんですが、自分の意見を言い合う場はあまりなくて、今回たくさんのお話を聞けたので自分も高校生時代を思い出したり、高校生のとき思っていたけど、今はこのように感じているから大人になってしまったんだなとかということも少し感じたりもしながら、皆さんの話を聞いていました。

根室の自然については、皆さんもこれから都会に出る方とか進路で地方に出る方もいれば、根室に残る方もいるかなと思います。私もずっと生まれ育って根室にいたときは、いつも通りの風景というふうに見ていましたが、一回根室を出て、帰ってきたときにすごく景色感動した記憶があります。

これからも多くのことを学んでいってほしいです。ありがとうございました。

<委員>

本日は皆さんありがとうございました。

教育長が言っていた、「学校が対応してくれない」というお話から綺麗にまとまったってわけじゃないですけど、やっぱり行動することって大切だなと感じた1日でした。

いろんな会議に出ていく中で、こういう結論に落とし込まなきゃいけない、こういう目標でここに向かっていかなくてはいけないという会議もあります。

その中で今回のような、多くの課題を出すという会議もやっぱり必要だなと、改めて若い人の考え方を教えてすごい私自身もいい勉強になりました。ありがとうございました。

<教育長>

勇気を持っていろいろ発言してくれたし、これから、その思いとかを、伝えたり、こうしていきたいという目標のようなものがあったら、一緒に考えられるような立場にいれたらと思います。今日は本当にありがとうございました。

以上で教育委員会の会議第2部を終了いたします。

12時00分 第二部 終了